

拝啓

秋冷の候貴方益々御精采の趣、心からお喜び申し上げます。

昨日はわざわざお電話いただき誠に有難うございました。その節お話ししの福田恒存氏のニュースにつきましては、早速図書印刷河野氏に電話し、福田氏の所論は何等の根拠もないこと、これを理由にただでさえ遅れている辞典の印刷をさらに遅らせるようなことは言語道断であること、をきびしく申しつたえておきました。

そこで読売新聞外報部中国関係担当者の釜井卓三君（四十四期）にも電話で問いあわせましたところ文化部担当とはちがうため、この記事は読んでおらず、事実とすればけしからぬ話だから、社外の人たちからいろいろな形で抗議するなり、反論するなりしては如何、ということでした。ところがすでに先月の新聞であるため、余部をいまから入手することができません。もし先生の方に切りぬきでも、おかきとりのメモ（全文）でもお手持があれば、誠にお手数ではございますが、至急拝借できませんでしょうか。福田氏がこういう文章をかいた根拠としてあるいは背景として、

一、 同氏はかねてわが国戦後の当用漢字、新かな使用に対する強力な反対論者である（最近是新憲法を当用憲法とよび、当然旧帝国憲法にかえすべきであると主張している）

二、 したがって新中国の文字改革に対しても敵意をもっている。

三、 中国では最近簡体字の徹底を促進しつつも、一方では文化遺産である主要古典に対する一般常識・教養をたかめるため、学校教育における古代漢語の学習課用を重視している。

四、 今春四月、簡体字の徹底をはかる根本方案のひとつとして、これまでそのままになっていた印刷活字の規格化を文化部と文字改革委員会が共同通達として指示した（当社月報本年五月号掲載記事）

が考えられます。

福田氏はおそらく自己の主観から、事実をよくたしかめずにあるいは故意に歪曲して執筆したものと思われます。同氏独特の論法は俗受けするところ大きく、心理的にあたえる影響は少くありません。私もすでに二、三の人からそれらしい話をきかされましたが、そのニュース・ソースがこの辺にあることが、先生からのお電話ではつきりしたような気がします。

鈴木先生はじめ諸先生方に何卒宜しくお伝え下さいませ。

右取急ぎおしらせ少々お願い申し上げます。

十月七日

敬具

自宅にて

大山 茂

内山 雅夫 先生

○御返事は会社宛にお送り下さって結構です。

〔注〕 大山茂氏は株式会社大安専務（同文書院四十期卒）。読売新聞に福田氏記事
中の事実誤認を指摘する投稿をした。

中共では一九五四年に文字改革委員會といふのが出来、そこで充分検討した結果、二年後の一九五六年に漢字簡化法といふ成案が出来上つた。いはゆる新字體である。しかし、それを直ぐに實施しないで、國民の大衆討議といふ形を採り、三年後に五百七十七字の簡略字體が教育、新聞、出版に採用されたのである。

當時、それをわが國の國字改革派は鬼の首でも取つたやうに騒ぎ廻り、彼の地に派遣された視察團は、そのうち中共はローマ字採用になると報告した。日本の大新聞でもそれを第一面に報道し、「將來漢字使用國は日本だけになる」といつた意味の大見出しを附けて、漢字廢止に拍車を掛けるものもあつた。

勿論、私は信じなかつた。そのうち彼等の言ふ事は嘘で、假名の無い日本と異なる中國では讀みを示す振假名としてローマ字教育を施してゐるに過ぎぬ事が解つた。それにしても新字體は面白くないと思ひ、今年になつて一寸その事を皮肉つた。中國と日本とは同文同種と言ひながら、日本では漢文教育をおろそかにし、兩國でそれぞれ相談もせず、勝手に新字體を發明して、意思の疎通を妨げるやうな事をしてゐる、幾ら皮膚の色が同じでも「大磯」を「大礪」などと書かれては話を通じない、これでも同文かとかからかつたのである。昨年、友人の大岡昇平が中共へ行つて土産に毛澤東詩集をくれたが、何とそこには舊字體ばかり並んでゐる。詩の巧拙は別にして、毛主席は古典主義者、保守主義者である事だけは確かだ。この調子では五百七十七字の壽命もさう長い事はあるまいと思つてゐたが、ついこの間、ある人から中國大陸では今年の四月に入學した小學校一年生からは新字體を教へず、すべて舊字體で行くと決まつたといふ話を聞かされた。理由は古典との斷絶と新舊兩方を覺える二重手間を避ける為だといふ。それにしても新字體がまさかかう短命とは思はなかつたが、それがもし本當なら新聞は前例に倣ひそれを大々的に報道する義務がありはしないか。至急調査して戴きたい。

附記 この最後の噂は誤報らしい。或は一地方の、それも單なる机上案だつたのかも知れぬ。

〔注〕 文芸春秋昭和六十三年刊「福田恒存全集6」所載。読売新聞一九六五年九月十五日夕刊「東風西風」初出。附記は、大山氏の投稿により全集に再録された際つけ加えたものと見られる。